◉特集　インターナショナルリニアコライダー

ＩＬＣの建設候補地が北上山地に決定！

国内の建設候補地が、東北の北上山地と九州の脊振山地の２カ所であった「インターナショナルリニアコライダー」（以下、ＩＬＣ）。このたび、国内研究者組織は、国内候補地を北上山地に一本化することを公表しました。今回は、この決定を受け、皆さんの喜びの声などをお伝えします。

■問い合わせ＝本庁政策企画課ＩＬＣ推進室（内線４１５）

ＩＬＣ計画を推進する国内研究者組織「ＩＬＣ戦略会議」（議長・山下了東京大学准教授）などは８月23日、都内で記者会見を行い、国内２候補地の評価結果を公表。建設候補地を北上山地に一本化しました。

ＩＬＣ戦略会議は、東北の北上山地と九州の脊振山地の２カ所の候補地を科学的・学術的に評価するため、ことし１月に「ＩＬＣ立地評価会議」（共同議長・山本均東北大学大学院教授、川越清以九州大学大学院教授）を設置。同評価会議内に２つの専門委員会を設け、両候補地の地質・地形などの「技術評価」と中央研究所の立地や研究・生活環境などの「社会環境基盤評価」の２つの観点から、延べ数百時間にも及ぶ評価作業を進めてきました。

記者会見では、山本、川越両共同議長が評価結果を報告。「ＩＬＣの国内候補地として、北上サイトを最適と評価する」という結論に全会一致で至ったとし「北上サイトにおける中央キャンパスは、仙台・東京へのアクセス利便性を有し、研究・生活環境に優れる新幹線沿線の立地を強く推奨する」と発表しました。

両候補地について、技術的観点では、トンネルがダム湖や都市部の下を通ることが課題とされた脊振山地に比べ、北上山地は50キロメートルのトンネルの確保に許認可や施工・運用上のリスク、工期・コストなどで大きく優位であると評価。また、社会環境基盤の観点では、北上山地は中央キャンパスの拡張性、新幹線・幹線道路の利便性に富む一方、脊振山地の中央キャンパスの一つは大都市に近く、生活環境に高い利便性を持つとしながらも、両候補地とも立地に支障があるような大きなリスクはないと評価しました。

社会環境基盤の観点ではやや脊振山地が優れていたものの、技術的観点で北上山地が大きく優位であるとした同評価会議。北上山地をＩＬＣの国内候補地として「最適」と結論付けました。

ＩＬＣをめぐる主な動き

1990年代	・研究者によるＩＬＣ候補地の調査、検討開始
2009年	・「東北加速器基礎科学研究会」（現東北ＩＬＣ推進協議会）発足 ・市文化会館（Ｚホール）で市内初のＩＬＣに関する講演会を開催
2010年	・国内候補地として北上山地と脊振山地の２カ所を選定 ・県と東北大学が共同で地質調査を開始
2012年	・「いわてＩＬＣ加速器科学推進会議」発足 ・「市国際リニアコライダー推進連絡協議会」発足
2013年	・「市ＩＬＣ推進室」設置 ・国内研究者による建設候補地の決定

ＩＬＣとは…

インターナショナルリニアコライダーの略称で、素粒子物理学の大規模研究施設のことをいう。全長31～50ｋｍの地下トンネルに加速器などを設置。トンネル内で電子と陽電子をそれぞれ加速し、中心部で正面衝突させる。これにより、宇宙の始まりとされるビッグバンの１兆分の１秒後の状態を再現するもの。このときに発生する素粒子などを観測することにより、宇宙の始まりや物質の起源などの謎に迫る。

ＩＬＣ建設候補地の北上山地
（阿原山の頂を望む）

建設候補地の決定を受けて
― 市長コメント

北上山地がＩＬＣの建設候補地として科学者の皆さまから評価され、選定されたことは、東日本大震災からの復興を目指している東北にとって大きな朗報であり、候補地を抱える自治体の長として念願が叶い、非常に喜ばしく思っています。

ご承知のとおりＩＬＣ計画は、本市出身の故椎名素夫先生が東北での実現を願いご尽力された国際科学プロジェクトであります。今回の決定は東北、そして、奥州市の将来を考える上で、まさに歴史的な出来事であり、ＩＬＣ計画が実現に向けて大きく前進したこの瞬間に立ち会えた喜びを噛みしめています。

北上山地への誘致へ向けて先頭に立って誘導いただいた岩手県をはじめ、20年以上の長きにわたり地道な誘致活動を支えていただいた多くの皆さま、また、経済界をはじめ、市民運動に参加いただいた多くの皆さまには、心から感謝とお礼を申し上げる次第です。

ＩＬＣ計画の実現には、政府がＩＬＣ計画を国家プロジェクトに位置付け日本誘致を表明し、世界の関係国が日本での建設を認め国際プロジェクトに決定するという手続きが必要になります。

世界に尊敬される日本、人類の発展に貢献する日本を目指し、引き続きＩＬＣの東北誘致に向けてこれまで以上に関係者の皆さまと一丸となって取り組んでまいりますので、広くご支援とご協力を賜りますようにお願いします。

平成25年８月23日

奥州市長　小沢　昌記